

未来を創造する力を育むN I E活動

兵庫県立兵庫高等学校 校長 富田 哲浩
教諭 阪本 和人

1. はじめに

兵庫県立兵庫高等学校は神戸市長田区に位置する普通科高校であり、普通科7クラスと創造科学科1クラスを設置している。本校は、平成27年度よりスーパーグローバルハイスクールに指定され、「課題先進国、日本を担い世界へはばたく『未来の創造者』の育成」を目指し、科学的思考力、複眼的思考力、社会創造力、自律的活動力の「4つの力」を育むことを目標としている。

2. 実践概要

本校は平成29年度よりN I E実践指定校の認定を受け、今年が取り組み1年目であった。「社会問題に対して主体的に思考し、未来を創造する力を育むN I E活動」というテーマを設定し、N I E活動を実施した。5～6月、9～10月の期間には、新聞6紙を購読し、毎日6紙の1面記事を生徒昇降口に掲示した。授業では、主に1年生の「現代社会」において、新聞を用いた授業を行った。また、学校設定科目「創造基礎 A」において、創造科学科の生徒が新聞ノートの作成などにも取り組んだ。

3. 実践内容

I 新聞記事を用いたディスカッション

(1) トランスジェンダーの女性の女子大への入学問題

トランスジェンダーの女性の女子大への入学を認めるか否かの議論を紹介した記事を用いて、「現代社会」の授業を行った。電通ダイバーシティ・ラボの調査によると、トランスジェンダーにあたる人は全体の0.7%とされている。この授業は、基本的人権の単元を学習した後に実施したため、生徒たちは憲法の条文などを根拠として、グループワークを行うことができていた。また、トランスジェンダーの女性、女子大、その女子大に在学している女子大学生などの複数の視点からの議論が見受けられた。

ワークシートを用いて、以下のような授業実践を行った。

① ワークシートに自分の考えを書き込む

「女子大学は、トランスジェンダーの女性の入学を認めるべきか？」

「女子大学が入学を認めない場合、憲法違反になるか？」

② グループでの意見交換

③ クラス全体での意見発表

④ 他の人の意見を聞いたうえで、ワークシートにもう一度自分の意見を書き込む

⑤ 今回の授業を通して考えたことを記入

<生徒の感想>

【トランスジェンダーの女性の入学を認めるべき】

- ・トランスジェンダーの学生の行き場をなくしてしまうと、それは差別と同様に扱われると思う。大学が、医師の診断などに対応することは難しいが、アメリカなどの先進国も行っている中で第一関門を開かないと、日本だけ遅れをとってしまうことになる。

【トランスジェンダーの女性の入学を認めるべきでない】

- ・いくら心が女性であっても、性は見た目で判断する人が多いと思うから、見た目が男性の限りは女子大学への入学は難しいと思う。
- ・すでに在学している女子大生は女子大学に入学したいから、わざわざそこを選んだ人もあるので、トランスジェンダーの学生が急に入学すると困る人もいる。

【入学を認めないことは合憲である】

- ・トランスジェンダーの女性が入学した場合、他の学生にも影響が出るため、公共の福祉に反しているといえる。
- ・憲法に書いている性別は戸籍、肉体的なものなので違憲ではない。

【入学を認めないことは違憲である】

- ・憲法第23条の「学問の自由」により、個人を尊重すべき。
- ・公立大学の場合は違憲であるが、私立大学の場合は、職業選択の自由があるので合憲。

【今回の授業を通して考えたこと】

- ・最初、トランスジェンダーの女性に入学を認めるべきだと思っていたが、班の人の意見を聞くうちに、自分の意見も変わった。多方向から物事を観察することが大切であると分かった。

(2)ブラックフェイス問題から考える「意図しない差別」

大みそか恒例の特別企画でお笑い芸人が行ったブラックフェイスへの批判を取り上げた記事を用いて、多文化共生の授業を行った。ブラックフェイスについて取り上げた記事を読み、自分の意見を考えたうえで、グループワークに取り組んだ。

<生徒の感想>

- ・番組を見たときに、「これはちょっとマズいな・・・」と感じた。白人か黒人のような生まれもったことで差別されるのではなく、その人の中身で判断されるべきだ。いじめにおいても、本人がそう感じたらいじめであるように、「意図しない差別」でも、彼らを苦しめていることを自覚した方がよい。
- ・この番組のブラックフェイスに対する批判があるということを初めて聞いたときは、「差別する意図ではなく、いいのではないか。」と考えたが、この記事を読み、「意図しない差別」であっても相手に不快感を与えるのであれば、やめたほうが良いと思った。

II 新聞記事を用いたレポート(夏季休業中の課題)

生徒が興味を持った「世界と日本」(兵庫県版高等学校地理歴史科用副読本)の項目、「現代社会」の単元に関連する新聞記事をいくつか読み、レポートを作成した。生徒が選んだテーマとしては、社会の中のマイノリティ、マスメディア、国際平和などが多かった。

Ⅲ 第48回衆議院議員選挙の分析

「現代社会」の定期考査において、時事問題を毎回出題している。2学期の中間考査においては、2017年10月22日に行われた衆院選についての問題を出題した。その後、考査返しの授業において、各社の新聞記事を用いて、今回の衆院選における野党再編成の経緯や兵庫県の選挙結果の分析を生徒とともに行った。選挙のしくみを学習した後に実施したため、生徒たちは教科書レベルの知識と実際の選挙戦とを結び付け、理解を深めることができた。

Ⅳ NIE新聞記者派遣事業「政治とメディア」

「現代社会」の授業の一環として、時事通信社神戸総局の栄野敦雄記者に「政治とメディア」という題で講義をいただいた。まず、栄野記者が執筆された県内の身近なニュースを紹介していただき、それをもとに報道機関の果たすべき役割について生徒に発問されていた。また、7月の神戸市長選や10月の兵庫県知事選における取材活動のお話もしていただき、生徒たちは選挙戦を実際に取材した記者の目線から選挙を見ることで、多面的に選挙について学ぶことができた。最後には、18歳選挙権についても触れていただき、生徒の感想には、政治と積極的に関わっていきたいという主体性が見受けられた。

<生徒の感想>

「SGH事業の一環として、新聞ワークに取り組んでいる。新聞を読むと、いつも要約された文が載っていて、それが普通だと思ってしまうが、その記事を書くためには記者の方がたくさん取材を重ねていることを改めて感じました。また、講義の最後でお話されていた18歳選挙権について、今から新聞を読んだり、本を買ったりし、有権者になる準備をしておきたいです。」



Ⅴ メディアリテラシーの授業「『ポスト真実』の時代を考える」

まず、スタンフォード大学の研究グループが実施したフェイクニュースの導入を行った。東日本大震災による被害の写真を複数枚変形した花の画像を提示した。そして、「なぜこの花は」ところ、一人の生徒が原発事故によるものであると答えを聞いたところ、40人のうち33人の生徒がそのように答と伝えずにいくつかのフェイクニュースを提示した。熊本、アメリカ大統領選におけるローマ法王のトランプ氏支たところ、その二つの記事についてはフェイクニュー



スと知っている生徒が大半を占めた。また、授業の展開では、フェイクニュースをたくみに利用するアメリカのトランプ政権について取り上げ、メディアと政治の関係性について考えた。最後に、「ポスト真実」と呼ばれている現代において、どのような行動をとれば、惑わされることなく、情報を入手できるかと聞いた。生徒からは「複数のサイトを読み比べる」「本当かわからないニュースは拡散しない」などの意見が出た。

VI 「創造基礎 A」における「新聞ノート」

NIE 実践校に指定される以前から、創造科学科の「創造基礎 A」において、新聞ノートに取り組んできた。交換ノートを用いて、以下のように実践した。

- ① 自分の気になる記事を切り抜き、その記事をノートにスクラップする。
- ② その記事を選んだ理由、感想を記述する。
- ③ そのノートを次の人に回し、次の人が前の人の記事及び感想について考えを述べる。

生徒たちの情報源は、大きくネットに依存しているといえる。SNS などを利用し、自分の興味ある情報のみを受信するため、フィルターバブルの中に閉じ込められることになる。「新聞ノート」の取り組みでは、他人がピックアップした情報について考えを述べるので、自分からはあまり受信しない情報も受信することができ、生徒の社会的な視野を広げることができた。

4. 成果と課題

2017 年 4 月と 2018 年 3 月の二度にわたり、新聞に関するアンケートを実施した。二度のアンケートの数値を比べると、4 月と 3 月ではあまり変化が見られないといえる。また、「新聞記事やニュースについて、家族や友人や先生とよく話しますか?」という質問に対し、「よく話し合う」「ときどき話し合う」と積極的な答えを回答した生徒の割合は、4 月実施では 45.3%、3 月実施では 45.0%とほぼ横ばいであった。

NIE 実践活動により、生徒たちの社会に対する視野は広がったといえる。また、ディスカッションなどにより、新聞から得た情報を用いて、自身の考えを形成する能力は上がっている。しかし、今回のアンケート結果を見ると、自分自身で新聞から情報を得ようとする主体性は身につけていない生徒が多数派である。来年度の取り組みでは、主体的に新聞を読む生徒を増やし、未来を創造する力の育成に努めたいと考える。

○あなたの家は、新聞をとっていますか？

	4 月実施	3 月実施
2 紙以上	4.0%	3.3%
取っている	69.2%	66.9%
取っていない	26.8%	29.1%
分からない	0.0%	0.7%

○あなたはどのくらい新聞を読みますか？

	4 月実施	3 月実施
毎日読む	7.4%	6.0%
ときどき読む	20.8%	21.2%
ほとんど読まない	34.9%	37.7%
全く読まない	36.9%	35.1%